

「学力向上に係る効果的事例（基礎・基本の定着）」

【越谷市教育委員会】

本校では、生徒の学力向上（基礎・基本の定着）のために不可欠なことは、「授業における教師の指導技術の向上」と「家庭学習の定着」であると捉え、以下のことに取り組んでいる。

1 研修課題に全職員で迫るための実践的な校内研修の実施

<事例>「模擬授業」

教員が教師役と生徒役になり、下の5つの教科でそれぞれ20分程度の模擬授業を実施した。本校の研修課題『しっかり教え、じっくり考えさせ、表現力を育む指導法の工夫』に迫るために全ての教科で取り入れてほしい指導法を研修推進委員会で策定し、模擬授業を通して共通理解を図った。（授業者は予め、A4版1枚の簡略化した指導案に、教師の発問や指示内容等を記入したものを作成した。）



その後の研究協議会では、授業者が提案した指導法について、自分の教科ではどのように取り入れていくか等についての議論や検討がなされ、本研修で学んだ手法を多くの教員が実践に生かしていた。

教科名	題材、単元等	模擬授業（指導法）のテーマ
国語科	『夏休みの思い出』	小論文の書き方、短歌の鑑賞、音読の指導法、発表の工夫
数学科	『比例と反比例』	説明の仕方、発表の工夫
英語科	『英文確認テスト』	繰り返し学習、基礎基本の定着
社会科	『温暖な土地にくらす人々』	板書の工夫、ノート指導の在り方、ICTの効果的活用
保健体育科	『思春期の身体の変化』	ペアやグループ学習の工夫 ジグソー学習

<事例>「授業公開月間」

「授業は、人に見せることで磨きがかかる」を合い言葉に、年間3回(6、11、2月)の授業公開月間を設定し、全教員による授業公開を実施している。公開月には、同じ教科・学年の教員が参観できるように各授業者の公開日時を設定している。

また、参観する際には、「参観シート」(右図)の記入をもとに、参観者と授業者同士で簡単な研究協議や質疑応答等を行い、授業力の向上に生かしている。

中学校 授業改善のための参観シート	
「研修課題」 しっかり教え、じっくり考えさせ、表現力を高める指導法の工夫改善	
○授業者() 参観者() ○参観日()月()日() 期() 校時()	
項目	参観の視点
I 授業づくり	○授業によって本時の学習内容がよく分かる 【指導】 ○生徒は、本時のめあてを把握している。 ○生徒は、本時のめあてを把握している。 ○生徒は、本時のめあてを把握している。 ○生徒は、本時のめあてを把握している。
	○生徒は、(ノートやワークシート)に自分の考えを述べて書いている。 ○生徒は、考えながら活動をしている。 ○生徒は、考えながら活動をしている。 ○生徒は、考えながら活動をしている。
	○生徒は、自分または他者(たり、自分の考えを説明したりしている。 ○生徒は、自分または他者(たり、自分の考えを説明したりしている。 ○生徒は、自分または他者(たり、自分の考えを説明したりしている。
II 心づくり	○生徒同士の間で話し合いや話し合い活動の場があり、生徒同士が学んでいる。 ○生徒同士の間で話し合いや話し合い活動の場があり、生徒同士が学んでいる。 ○生徒同士の間で話し合いや話し合い活動の場があり、生徒同士が学んでいる。
	○生徒は、学習の身を守る意識を持っている。 ○生徒は、学習の身を守る意識を持っている。 ○生徒は、学習の身を守る意識を持っている。
III 規範づくり	○生徒は、学習の身を守る意識を持っている。 ○生徒は、学習の身を守る意識を持っている。 ○生徒は、学習の身を守る意識を持っている。

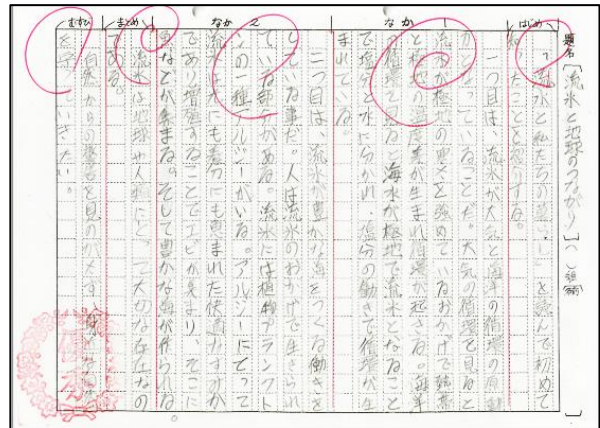
2 言語活動の充実を目指した授業実践

学習指導要領において言語活動の充実は、「国語科で培った能力を基本に」「各教科の指導計画に位置付け、授業の構成や進め方を改善する必要がある」とされている。国語科でおこなっている言語活動には、音読や発表、説明やスピーチ、討論やグループの話し合い学習などの「話す活動」や、ノートや短作文、小論文、レポートなどの「書く活動」である。これ

らの活動は、全ての教科で取り組む必要があることについて共通理解を図り、国語科の取組をベースとした各教科の「言語活動計画」を策定して授業実践に当たっている。

<事例>「全教科における小論文の導入」

「小論文」とは、400字程度の学習用の作文のことである。(右図)



「論理的思考力・判断力・表現力」の育成をめざし、国語科では年間10回程度取り組んでいる。工夫していることは、序論・本論・結論を中学生にも書きやすいよう「はじめ・なか・まとめ・むすび」の構成に設定して20分程度で記述できるようにしている。国語科以外の各教科、道徳、学活、総合の時間

でもそれぞれの教科等に合ったテーマで取り組んでいる。全教科で、繰り返し小論文を記述することにより、生徒は短時間ですらすらと文章が書けるようになり、数学の証明問題の答えや、記述式のテストにおいても未記入者が徐々に減ってきている。また、小論文を原稿とした発表やスピーチも授業の中に設定し、「書く活動」から「話す活動」へと発展させている。

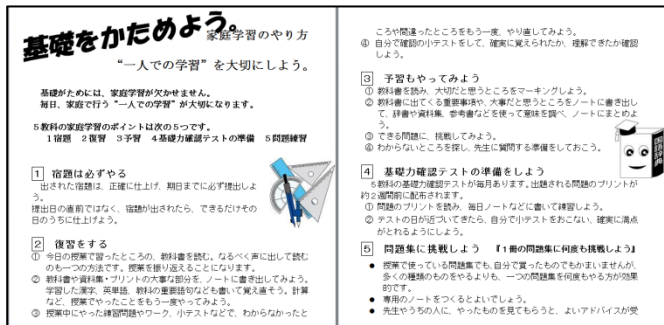
こうした取組により、行事や集会における発表の機会等でも原稿を見ないで自信をもってスピーチができる生徒が増えてきている。

3 家庭学習の定着に向けた取組

<事例>「家庭学習の手引きの作成・活用」

家庭学習の定着を目指して「家庭学習の手引き」(右図)を作成し配布した。

手引きの中には、「チェック欄」や「目標を記入するページ」があり、学級担任が見届けを行っている。また、各教科担任も授業の中で学習方法を再確認する時に使用している。



家庭学習の取組の中に、「毎日の2ページ学習」がある。これにより、毎日欠かさず机に向かう習慣が身についてきている。

<事例>「基礎学力定着テストの実施」

漢字・計算・英単語、社会、理科の五教科で、学期に1回ずつ、基礎的な内容のテストをおこなっている。(右図)

テストの2週間前に問題と解答を配布し、全員が満点をとれるよう、毎日家庭で学習させ、基礎学力の定着を図っている(テストの結果、個別指導が必要な生徒に対しては、できるまで粘り強く指導している)。

また、満点者の氏名を学年通信や廊下に掲示して称賛し、達成感や意欲を喚起してコツコツと努力することの大切さを実感させるよう工夫している。